

## 【冒頭】

「天草に看護福祉総合学校をつくろう！」をテーマに、9月17日、天草地域医療センターのホール「ヒポクラート」にてシンポジウムを開催。進学を控えた子どもを持つ保護者や学校関係者、医療・福祉施設の施設長や職員など、約80名の参加を頂いた。

天草本渡青年会議所は、創立50周年を迎えた一昨年の2013年、次なる創立60周年に向けて、「人口を呼び込む・人口を減らさない・人口を増やす」を念頭に、あまくさ運動指針「人口革新」を策定。昨年は、この運動指針に基づいた具体的な活動を全メンバーで議論を重ね、その結果看護福祉学校の開設に向けた取り組みにまとまった。今回はその第1弾となる事業の開催となった。

シンポジウム開会の冒頭で田中理事長は、天草市を例に挙げ、「現在約86000人の天草市の人口は毎年1500人近く減少している。その要因は、死亡に次いで高校卒業後などの若年層の人口流出。天草地域を多くの若者がいる活気あるまちにしていくためにも、このシンポジウムを皮切りに頑張っていきたい。」と挨拶。

## 【第1部：アンケート調査結果発表】

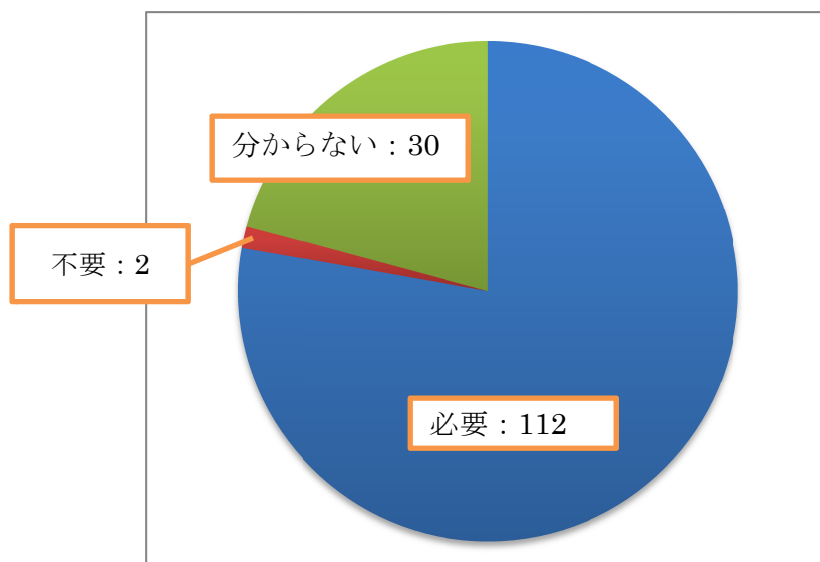
まず第1部に、天草地域住民に対してのアンケート調査の集計結果が発表された。調査対象は、上天草市、天草市、苓北町の医療・福祉関係施設（293施設対象）や、県立高校生（2448名対象）と保護者（2448名対象）。

医療関係・福祉関係施設へのアンケートでは、「天草市に看護福祉総合学校が必要だと思いますか？」の問いに、必要が112、不要が2、分からない30と、無回答の140を除くと約7割の施設が学校は必要だとの意見があった。また、学校開設時の実習の受け入れが出来るか、また学生の就職先としての受け入れはできるかとの問いに対しては、「ぜひ受け入れたい」と「場合によって受け入れはできる」との施設が、回答施設全体の約8割を占め、学校が開設した際は天草地域で看護師や介護福祉士の資格を取り、そのまま就職もできる流れがあるということが示された。

### 医療・福祉施設向け

Q. 看護福祉総合学校が必要ですか？

(293施設中、有効回答153)



保護者への設問では、「お子様を進学・就職させたい地域を選んでください」において、天草地域が230（19%）と天草外（81%）の希望が多かったものの、「天草市内に専門学校があれば進学させたいですか？」との設問で、希望学科があれば進学させたいが1029（65%）と半分以上の割合を占め、子どもが望む学科があれば多くの保護者が天草へ進学させたいという反応があった。また、天草に進学・就職させたい理由として、「子どもを都会に出すと不安だ」という意見もあった反面、天草地域外への希望者からは「人間関係・交友関係を広げさせたい」との声があった。

Q. 天草市に専門学校があったら、何を学ばせたいですか？

1位：看護師 2位：IT関係 3位：幼稚園教諭・保育士 4位：機械・建築 5位：介護福祉士

生徒への調査では、「就職したい分野は何ですか」の設問に、男子が機械・建築、公務員、医療・福祉、女子が医療・福祉、公務員、学校の先生の順、全体の合計人数では医療・福祉の就職希望者が一番多かった。また、進学に関する設問では、全体の約6割に当たる1260人が進学を希望。併せて学びたい分野を聞いた所、看護師、保育士、理学・作業療法士などの福祉関連分野が上位となった。また「天草に専門学校があれば進学したいですか？」の設問では、希望する学科があれば進学したいとの回答が232と、天草地域外の172を大きく上回った。人間関係を広げたい、また都会への憧れといった想いで天草を離れる生徒もいるが、この232人に関しては天草に希望する進学先がないので、やむを得ず天草を出て行っているという現れである。

Q. 学びたい分野は何ですか？

1位：看護師 2位：幼稚園教諭・保育士 3位：理学・作業療法士 4位：機械・建築 5位：理容・美容

以上のアンケート結果から、医療・福祉施設からは「看護・福祉関係の資格保有者が欲しい」、保護者からは「子どもの希望が合えば、天草で進学して欲しい」、生徒からは「天草に進学先があれば進みたい学生は多い」との反応が見えてきた。

## 【第2部 基調講演】

「みんなが出来ることをする。地域での支え合いが大切ですし、そういった社会をつかっていきたい。」講演の冒頭に神崎氏は、産まれながらに障害を持った長男との生活や、認知症を患う近所のご夫婦の面倒をみている介護職員を例に挙げ、話を切り出した。

今年の4月に開設したばかりの舞鶴YMCA国際福祉専門学校がある舞鶴市は、京都府の北部に位置する人口約8万5千人の町。隣町の福知山市にある看護学校と高専を除くと、大学や短大、専門学校などの18才から選択できる学校がこの北部地域には無く、大阪市

や京都市への人口流出の一因となっている。天草市と同規模の人口の町であり、人口流出による人口減と、同じ悩みを抱えている。

このような状況の中で舞鶴市は、高齢者や認知症患者の増加が確実な将来に備え、介護現場の働き手を養成するために、介護福祉士の実技試験が免除となる介護技術講習会を開催している京都のYMCAに、舞鶴市内での開催を依頼。講習会場の京都市内までが遠く、参加が困難な人のために、講習会へ参加しやすい環境を整えた。介護人員をどうしても増やしたいとする舞鶴市、また同様な考えを持つ京都府との意見がマッチした取り組みで、この講習会の次なる展開として学校の開設へと至った。神崎氏は、「18才からの人口流出対策としても効果が期待されている。」と話す。

また課題としては、京都府で専門学校の最低定員数としての40名の学生確保の点を指摘。学校開設の初年度で募集案内が通常より大きく遅れたこともあった中、介護福祉学科の1期生は14人。人口140万人強の京都市の福祉専門学校でも、ほとんどが40名は集まっていないとのこと。対策案の一例として、学校卒業後に3年間地元の福祉施設で働いた場合の授業料を免除するといった舞鶴市の奨学金制度などを紹介した。

まとめに、学校開設に取り組むに当たり、介護福祉の現場の方がもっと声を挙げ、その中で行政機関との協力が不可欠とアドバイス。「私は知恵も力も無いが、少なくとも介護のこと、高齢者の方や障害者の方と一緒に社会にしたいという想いがあります。情熱と想いが無いとこういった事は生まれません。」と、想いをもち続ける大切さを強調した。

### 【第3部 討論会】

第3部では、障がい者支援施設星光園で相談支援専門員の野田祐介氏、芥明高等学校生徒会長の須崎みずきさんと副会長の野際好乃さんを招き、討論会を開催。神崎氏と田中理事長と共に、福祉に携わる立場や進学を控えた学生の意見を交えながら、天草地域にふさわしい学校設立の形を探った。(以下一部抜粋)

コーディネーター(以下コ)：ご自分の夢は何でしょうか？また、もし天草に専門学校があれば、残りたいと思いますか。

洲崎：私は保育関係の仕事に就きたいです。ただ、天草に専門学校ができた場合でも、知らない土地で生活したり、たくさんの人と関わっていきたくないので恐らく天草には残らないと思います。ただ、私のクラスでは専門学校への希望者も多く、自宅から通えるメリットもあるので、学校ができれば進学する人は多いと思います。

野際：自分が通っていた保育園で、保育士としての夢を実現したいです。学校が天草に出来た場合ですが、私は天草に残りたいです。周りの友達からも、実家から通えるので勉強にも集中できるし、住み慣れた地域で気持ち的に負担も少ないという意見を聞きます」。

コ：野田さんにお聞きします。アンケート結果を見ますと、福祉施設から働き手を求める声が多くある中に、天草に専門学校を開設できた場合にどういった効果があると思いますか。

野田：現場としては、即戦力の確保が出来るので頼もしく思います。ここ数年、新卒者の採用などが殆どありません。ただ、即戦力と言っても知識や技術は確かに必要ですが、福

社の専門職としての価値や倫理観を学校で積み重ねて欲しいです。また、実習の受け入れも出てくることから、受け入れる側のスキルアップも期待されると思います。

コ：天草に就職口が無ければ学校を創っても意味がないとの意見もありますが、雇用の需要に関してはどうですか。

野田：天草ではどこの施設も募集をしてもなかなか集まらないというのが現状です。これからの高齢化社会に対して、社会的ニーズが高まっていく中、人材確保が社会全体で喫緊の課題だと思います。また、私自身もYMC A熊本校の出身で色々な経験をさせて頂きましたが、実習先が就職先となることが多くありました。実習を通して顔を見える関係づくりが、雇用の創出にも繋がっていくと思います。

コ：神崎氏にお尋ねします。これまでの地元の意見をお聞きした感想と、今後のアドバイスをお願いします。

神崎：地域の方が参加したこういった会が設けられる事に、コミュニティの力を感じます。現在、地域創世のお金をどう使うか都道府県からもアイデアを募集している段階です。そういった中で行政のお金を上手く使いながら、地域連携をしながら、人口減少という今の状況をチャンスと捉えてチャレンジして行って欲しい。